

スーパー耐久シリーズ 2017
第3戦 鈴鹿サーキット



東 徹次郎
TOHJIRO AZUMA

サバイバル形式の予選も一発クリア！！

決勝ではトラブルに見舞われながらも

シングルフィニッシュで3戦連続ポイント獲得！！

- ・開催サーキット：鈴鹿サーキット（5.807km）
- ・レース時間：4時間
- ・チーム：T's concept
- ・マシン：T's concept 86 (TOYOTA86)
- ・カーナンバー：#29
- ・クラス：ST-4
- ・ドライバー：A **東 徹次郎** B松永 大祐 C小倉 康宏



公式予選（6月10日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

前日までの占有走行では前回の SUGO ラウンドのセッティングではマシンが柔らか過ぎてしまい、それに伴っていろいろ変更して予選を迎えました。

今回は予選開始と同時にコースイン、計測1周目からアタックしようと考えていたのですが、思いのほか ST-5 クラスのマシンとの間隔が微妙だったので、1周待って計測2周目でアタックに入りました。

しかしながら少し気負い過ぎたのか S 字コーナー1つ目で縁石にひっかけ過ぎてしまい、オーバーステアを出してしまいます。

そのせいで上りにもなる S 字コーナーの2つ目、3つ目と車速が落ちてしまいました。

更に、バックストレートに出ると間隔を開けていたのにまさかの ST-5 クラスのマシンが・・・。

130R からシケインでそのマシンと重なってしまい、ここでも少しタイムロスをしてしまいました。

このラップ、前日までの自己ベストタイムを更新するもミスでタイムロスもしてしまったので、そのままもう1周アタックに入ります。

しかしながら、やはりタイヤのグリップのピークは少し落ちてしまい、1周目より走りはまとめられたもののタイムは結局最初の計測がベストタイムになりました。

自分のミスでまとめきれない予選となってしまい、非常に悔やまれる内容です。

ただ、それでも合算タイムで11位でしたので、予選落ちにもならずセカンドチャンスレースも走らず、無事に土曜日を終えることが出来ました。

予選結果：11位 4'52.801 (A・B合算タイム)

A：2'25.160 B:2'27.641 C:2'28.207

決勝（6月11日）

◆Weather：晴れ ◆Course：ドライ

梅雨入りした鈴鹿でしたが、決勝もドライコンディションで迎えることが出来ました。

4時間レースの決勝、今回も順番は松永選手からスタートし、次に小倉選手が乗り込みます。

両選手がそれぞれ70分、そして自分が残りの100分を担当する予定でした。

今回は全クラス一緒に走行する為、ST-XクラスからST-5クラスまで50台もの台数が走行します。

クラスごとでタイム差も全然違うので、決勝はいかにロス無く自分の走りが出るかということが重要になってきます。

今年初の全クラスでのレースがスタートします。

スタート時の混戦、そして途中セーフティーカーも出ましたが、それらを無事にクリアし、松永選手は12番手で予定通り小倉選手へ交代します。

小倉選手もガソリンが軽くなるにしたがってペースが上がり、他車のトラブルもあって11位で自分へと交代して残りはいくつポジションを上げられるかという感じでした。

前回のレースで少し手間取ってしまったドライバー交代も今回は無事にクリアし、コースへ。

コースインして驚いたのが、マシンのパワーがこの週末を通して一番無いように感じたことです。

そして、この週末を通して持ち込みセッティングより硬い方向にセットアップしてきたのですが、ガソリンフル満タン時のマシンバランスがそれでもまだ柔らかくて、予想以上に動きが多く思うようにペースが上がりませんでした。

パワーが無いと感じるのは、S字コーナーが朝の練習までは4速で走っていたのが、4速のパワーバンドから少し外れてかったらいいのと、ヘアピンからスプーンコーナーまでの区間で5速に入っていたのが4速のまま引っ張って行ってしまうのです。

まるで、前戦のSUGOのときの自分の予選時のような感じでした。

S字コーナーは3速で走ってみたり、4速でなるべく車速を落とさないようにと走ってみたりしましたが、なかなかタイムが上がってきませんでした。

そして残り時間が1時間を過ぎたあたりでした。

シケインに進入する際に右の縁石に乗せた瞬間、リアの足回りに違和感が。左に切り返す際にはもうその違和感がトラブルだと確信に変わりました。

そのまま無線で足回りがおかしいからピットに入ると伝え、緊急ピットインします。

原因は、ドライブシャフトが左右とも折れていたのです。

折れたのがシケインで本当に良かったと感じました。

これが違う場所で起きていたら、間違いなくピットまで帰ってくる事が出来なかったと思います。

当然気付かずあのときピットに入っていなかったらアウトでした。

このドライブシャフトの修理は、メカニックさんたちの素晴らしい作業のおかげで、あっという間にコースへ復帰することが出来ました。

この修復の際に、足回りの減衰を前後とも硬くしてコースへ。

硬くしたら少し乗りやすくなり、タイムも少し上がってきました。

ガソリンが減ってきて軽くなってきたからなのか、ドライブシャフトが直ったからなのか、エンジンも少し軽くなった気はしました。

それか、足回りを硬くしたことでアクセルオンが早くなり、全体的に速度が上がったのか・・・。

いずれにしろ、決勝ペースに課題が残る決勝レースとなりました。

しかしながら、9位でチェッカーを受けることが出来て、今回もポイントを獲得することが出来ました。

早急にマシンを修復してくれたチームに改めて感謝したいと思います。

決勝結果：9位（自己ベストタイム：2'28.474）



反省

まず予選は今回他クラスのマシンに引っかけってしまったので、改めて1周をミス無くしっかりとまとめることが重要になってきます。

そしてもう一つは決勝のペースです。

今回の鈴鹿は1周が長いので、それぞれドライバーの慣熟の時間も考慮すると、本当にセットアップに使う時間は僅かでした。

まだまだチームも自分自身もデータを積み重ねている段階で全てが手探りという状況なので、なかなか思うように的確にマシン作りが出来ていません。

一番は、予選も決勝もマシン作りがポイントになると言えます。

また、今回時間が無くてガソリン満タン時のテストも出来ていなかったのも、次戦のオートポリスラウンドでは、練習時にフル満タンでもセットアップをしていこうと思います。



最後に

今回のレースもたくさんの応援、有難うございました。
今回のレースで初めてレース中にトラブルが出てしまったのですが、原因と対策を施して次戦に臨みたいと思います。

しかしながら、チームの素早い修復作業には技術力の高さを感じましたし、そのおかげでトラブルが出ながらもポイントを獲得することが出来ました。

いよいよシリーズも折り返して後半戦に突入します。
次戦は自分としても久しぶりに走る、九州にあるオートポリスで7月15・16日にあります。

苦戦続きの前半戦でしたが、これまでの3レースの経験をしっかりと活かしてここから最激戦区のST-4クラスで結果に繋げていけるようチームと共に全力で頑張ります。

どうぞ今後とも御支援御声援の程、宜しくお願い致します。

2017年6月17日

東 徹次郎

